

活発な校内委員会の運営による登校支援について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、小学校の時は別室登校をしていた生徒である。中学校入学時は教室に登校することができていたが、2学期から欠席が増えはじめ、第2学年に進級した後も欠席が続く状況であった。校内委員会にて、別室に登校して学習課題に取り組むことを提案し、別室担当教員が学習支援を行っている。

具体的な取組

組織力の向上

「別室対応による不登校生徒の支援」

1、2時間目は民生委員、3、4時間目は、担当する教員を時間割に位置付けるなど生徒を見守る担当を明確にした。

また、校内委員会を中心に利用ルールを作成したり、教室環境を整備したりしている。



校内体制の強化

担任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、特別支援教室担任等が積極的に家庭訪問等に取り組み、不登校生徒の情報収集を行った。校内委員会や研修会を計画的に実施し、不登校支援や特別支援について、方向性を共通理解した。



個々の不登校生徒への支援

スクールカウンセラーと学校で連携し、個々の生徒のアセスメントを丁寧に実施するとともに、担任等への助言を行った。福祉的な援助を必要とする家庭・生徒へは、スクールソーシャルワーカーによるアウトリーチを行い、積極的に地域機関との連携を図った。

加配教員連絡協議会及び区内中学校における居場所運営の視察

都で実施する「不登校対応加配校等連絡協議会」で研修した内容をまとめ、校内で還元研修を行った。また、事業所と連携した居場所の運営を実施している区内中学校へ視察し、視察内容を校内委員会に報告した。

成果

- ・当該生徒を含め、7名の生徒の登校日数が改善
- ・学校内外の機関による相談や指導を受けていない不登校生徒数が28人中3人まで減少
- ・地域機関である民生委員2名が別室運営に参加



課題

- ・保護者の協力・理解
- ・外部人材への謝礼財源
- ・教員の勤務時間外への対応
- ・限られた時間の中での情報共有

コミュニティ・スクールを活用した「居場所づくり」について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、現在第2学年である。1学期は、登校できていたが、2学期に入り登校できない期間が続いていた。校内で教室以外の居場所を設置したところ、当該生徒から利用したいと申し出があり、その後は、継続的に利用を続けられている。現在は別室での登校が続いているが、最終的には教室復帰を目標に支援を継続している。

具体的な取組

教室以外の「居場所づくり」

職員室に近い空き教室を活用し、教室以外の居場所を確保した。他の生徒の声が聞こえない落ち着いた環境であることに加え、職員室にも近いことで生徒の状況確認や相談にすぐ応じることのできる空間として活用している。

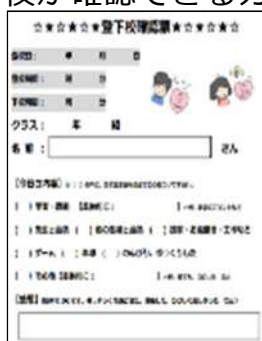


地域の人材を生かした居場所づくり

コミュニティ・スクール委員に学校で居場所づくりを行っていることを相談したところ、利用生徒の見守りに協力してもらえることになった。地域人材の活用は、教職員の働き方改革という視点に加え、地域とのつながりを深めるという点でも効果的であり、今後も連携していきたいと考える。

スクールカウンセラーとの連携

校内で作成した登下校が確認できるカードなどを活用して、スクールカウンセラーとの連携を積極的に図ることで、不登校生徒の状況に応じた支援につなげる体制を整えている。



全教職員への意識改革

いつ、だれが居別室を利用しているのかを把握するために、職員室に利用者表を掲示した。全教職員が確認できるようにしたことで教職員の生徒への関わり方にも変革を促すことにつながっている。



成果

不登校加配教員を中心として校内の「居場所づくり」を行い、当該生徒を含め、支援を継続している。不登校について、コミュニティ・スクールで議題に上げることで地域の課題としての認識につながり、様々な立場で生徒や家庭に寄り添うことができた。

課題

不登校生徒への周知も含め、今後も学校とつながる手段のひとつとして「居場所づくり」を積極的に推進していく。

別室指導教室（ごっちゃんルーム）の活用について

不登校児童・生徒の状況

本校には、登校したいが教室には入れない不登校傾向の生徒や、普段は教室で学習しているが、息が切れてしまったり特定の教科の授業に参加できなかつたりする生徒など、多様な背景をもった不登校生徒が在籍している。

具体的な取組

別室指導教室の開設

別室指導教室は、毎日2校時から5校時まで（水曜日は給食まで）開室している。別室での過ごし方は、本人に選択させている。学習に取り組んでも、休憩をしても、先生やボランティアスタッフとの会話やゲームをすることでもよく、自由度を広げることによって、生徒が利用しやすいようにしている。

定期的な委員会の開催

毎週確実に委員会を開催できるように、時間割上に会議日程を位置付けている。会議では情報交換からはじまり、改善策の立案や生徒一人一人に対する支援の在り方の見直しなどを行う。内容については、他の教員へ周知し、個をしっかりと理解した上で個別最適化された対応ができるよう心掛けている。

成果

別室指導教室を開設したことで、登校できるようになった生徒が増えた。別室があるという安心感からか、他校で不登校となった生徒の転入者が今年度前半だけで7名いる。全校生徒で140名程度の学校としてはかなり多い転入者数となっている。学校復帰率は70%を超えている。

ボランティアの活用

開室している時間は、教員がいることができるように時間割上で割り振っている。それに加え、大学生のボランティア（11名登録）にも入ってもらい、一人一人の生徒のニーズに極力合わせる事ができるよう努力している。

別室指導教室の整備

昨年度整備した物品に加えて、本年度は新たにソファや間仕切りを買い足し、教室の整備を行った。学習ができるスペース、談話を楽しめるスペース、リラックスできるスペースなどを確保し、さまざまなニーズに応えられるようにしている。



課題

教室への復帰よりも、リラックスできる居場所としての役割が強いため、生徒に将来への目標をもたせることが難しい。

リソースルームの活用について

不登校児童・生徒の状況

【リソースルーム（校内に設けた不登校解消に向けた部屋の名称）の対象生徒】

- ・ 小学校から学校に通うことができていない。
- ・ 登校はできるが、教室へは入ることができない。長時間教室にいることができない。
- ・ 特定の授業への参加が難しい。

具体的な取組

リソースルームの開設

原則、平日は、9時～12時15分、給食後は13時40分～15時まで開室している。（水曜日は午前中のみ。土曜授業日は、9時～11時頃まで。）

部屋での過ごし方は、生徒が選択できるようにしている。オンライン授業を受けられることや、自分の学力に合わせた学習ができるような環境を整えている。

リソースルーム生徒の様子を共有

リソースルームでの生徒の様子を電子ファイルに入力する。データ化することで全教員が確認、情報共有できるようにしている。

成果

- ・ 不登校対応加配教員が中心となってリソースルームを運営する体制づくりを確立したことで、開設時間を長くするなど、充実した居場所づくりにつなげることができた。
- ・ リソースルーム内で課題提出までのサポートを行うことで、期限内に課題を提出することができるようになり、学習意欲が向上した。

勉強のサポート

小学校低学年から学校に通うことができていない生徒向けに、簡単な計算ドリルや遊びながら漢字を覚えることができる漢字ドリルなどを用意している。必要であれば不登校対応加配教員や学力向上専門員が課題や授業のサポートを行う。

不登校支援委員会の設置

隔週木曜日の1校時に行う。

リソースルームに通う生徒だけでなく、なかなか家から出ることができない生徒について、個の状況に合った対策を検討している。生徒の状況に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を図っている。

課題

カードゲームやボードゲームなどを利用して、コミュニケーション力を高めることや、学校に通うことができるようになった生徒の次の目標を一緒に考えられる体制づくりが課題である。

